

読者のひろば



読者の皆様からいただいたお便りの中から、ご意見や情報などを紹介します。

娘

が仕事の都合で隣の市へ移住し数年たちます。鹿屋を離れてから鹿屋のことを考えるようになったと話し、広報は毎号必ず読んでいます。地域の元氣な事業所については毎回チェック。いつか鹿屋で仕事をしたいと思っているようです。ふるさと納税で年末に申請した鹿屋大隅のうなぎを美味しく家族でいただきました。(かのやばんださん・女性)

本市から転出されても故郷を思い、広報かのやをご愛読いただきありがとうございます。ふるさと納税は応援したい自治体等に寄附して、所得税や住民税が控除される制度。集まった寄附金は本市の発展・活性化に向けた6つの取り組みに充てられています。寄附者へのお礼の品としてお渡しする返礼品はうなぎや牛肉、黒豚、カンパチ、焼酎など多種多様な特産品です。ぜひ、故郷の味をご賞味ください。

以

前はよく本を読み、手紙やハガキも出していました。色々便利になり、情報も得やすくなりました。時間をかけて調べる事が減り、会話しなくてもメールで用事が済み、時間はいっぱい余裕としてうまれるはずなのに、忙しい社会なのは何故でしょう。時間を有効に使い人との関わりは増やしていかないと、と思う日々です。このハガキも書く作業で色々な五感が働いています。(K・Nさん・女性)

ネット社会の進展が手紙やはがきを出す人が減っている大きな要因といわれています。特にSNSが急激に広がって以降、人々の生活感覚が変わり、スマホで断片的な言葉を用いてやり取りすることが多くなりました。手紙など一文字一文字書くのは大変ですが、気持ちが伝わるからこそ相手に大切にしてもらえます。直筆で思いを伝えることの大切さを今一度見直してみたいものです。

東

京から輝北町に移住して4年。お気に入りの場所が見つかりました。一つ目はうねば公園から眺める桜島。雄大な威容は息をのむ美しさです。二つ目は輝北支所裏の丘を登った所にある西原城址からの眺望。町を一望、敵の動向がはっきりと見渡せたことでしょう。そして三つ目が輝北ダムに架かる新飯屋橋の袂、あじさい園の上の道からの眺め。ダムと橋と山と道が織りなす景色は、私が画家なら絵筆をとりまします。あじさいの季節はさらにおおすすめです。(輝北のハタ坊さん・男性)

移住にはかなりのエネルギーを必要とされたと思いますが、それを癒す、お気に入りの場所が見つかったのです。移住したからこそ発見された地域のすばらしい魅力を熟くお伝えいただき、改めて鹿屋市にはまだまだ伝えきれていない魅力があることに気付かされました。

本市では、国の移住就業支援金(東京23区からの移住に加え、令和7年度から県外からの移住者を対象に最大100万円の市独自移住応援金など、「移・職・住」の手厚い支援制度を開始します。移住をお考えの人は「かのや移住サポートセンター」に、住まいや仕事に関することなど何でもご相談ください。

私

は幼い頃の母による毎日の読み聞かせのおかげか、今では月に百冊以上の本を読んでいる本好きです。調べ物も、本で調べたほうがデマが少ないので安心できます。今回の特集で読書の良さが書かれていて、とてもうれしかったです。これを機に、本を読む人がもっと増えてくれるとうれしいです。また、読みたい本があっても手に入らないことがあるので、本屋、古本屋、図書館をもっと増やしてほしいです。(本好きメガネさん・女性)

書店の数は全国的に減り、1軒も書店がないという自治体は3割近いと言われています。経済産業省も書店減少に歯止めをかけようとプロジェクトチームを作り、経営相談や補助金活用などを助言しています。紙の本、電子書籍それぞれに良いところがありますが、ライフスタイルに合わせて楽しんでみましょう。

フォトネタ



輝北でレクリエーション実践講座

3月2日、市成地区公民館で「地域コミュニケーションに役立つレクリエーション実践講座」が開催され、ボッチャをしながら実践的なレクリエーションを学びました。